



大原美術館後援会会報

丸窓

[第29号] 令和6年6月

《掲載情報》

- ・大原美術館会活動報告
- ・特別展の情報
- ・大原美術館後援会より など

発行：大原美術館後援会事務局

大原美術館活動報告

令和6年度新体制展望

事務局長 森川政典



公益財団法人大原芸術財団として新体制がスタートいたしました。今後の展望について少し振り返りながらみなさまにお伝えしたいと思います。記憶に新しいところですが、令和元年末中国武漢でのコロナの発症を受けて、翌2年には感染が瞬く間に国内に広がりました。長期休館とコロナ対応に苦慮する中で年間入館者数は7万人まで落ち込みました。このような状況を受けて、様々なチャレンジプロジェクトを立ち上げ実行と反省を繰り返しながら館と財団運営の新しい姿を模索してまいりました。そのコロナ禍で「みんなのマイミュージアム」宣言を發し、目指すべきスローガンも共有するに至りました。

倉敷考古館との合併、大原芸術研究所設立の具体化はその前から着手していました。実は大原芸術研究所新設に対する構想(「芸術研究は人間研究である」)は、高階所長が館長として大原美術館に携わる随分前からあったとのこと。研究所が美術館を運営することは国内では稀有なことです。加えて新たな組織は事業部と研究部の2部門制とし、それぞれの管理職(部課長)は女性です。今後益々女性活躍推進をはじめ様々な労働環境の整備にも注力してまいります。2030年の創立100周年に向けて大原芸術財団は様々な変革に挑戦しながら、新しい価値観の創出にも尽力してまいります。最後に現在好評開催中の特別展「異文化は共鳴するのかがり?大原コレクションでひらく近代への扉」をご覧いただけましたでしょうか?後援会会員のみなさまはもとより、ご家族やご友人とご一緒にご高覧賜りますようお願い申し上げます。



3月22日の財団設立記者会見の記念撮影風景

大原芸術研究所 研究部より

研究部について

研究部部長 孝岡 睦子



本館1室風景

芸術財団に研究部?ミュージアムで試験管片手に白衣の研究員が・・・いえいえ、そういうわけではありません。「芸術の研究」は、なかなかイメージが湧きにくいかもしれませんが、研究部はそこを核とする部署です。研究部は「展示・コレクション管理チーム」、「教育普及チーム」、「コレクション保存グループ」、「情報管理グループ」、「学術企画グループ」からなり、そのメンバーは総勢7名。「研究員・学芸員」などそれぞれが「研究員」と名のり、新年度・新財団発足に伴い誕生した大原芸術研究所と、そのもとにある倉敷考古館と大原美術館を舞台としています。

では、具体的に何をしている部署かということ、研究を土台とした活動、つまり、展覧会をするから研究する、ワークショップをするから研究する、データベースを構築するために研究する、のみならず、ベースとして研究活動があり、その成果のアウトプット先として展示、各種教育普及活動、出版物の刊行などがある、そして、日々の調査研究の蓄積として作品の保全を行う、という、これまでと同じことをしているように見えるかもしれませんが、常に「研究」を母体とした活動を行っていくことを目指していきます。直ぐに実行することは難しいかもしれませんが、ですが、日々、少しずつでも実現に向かって進んでいくことができればと思っております。その第一歩が、特別展「異文化は共鳴するのかがり?大原コレクションでひらく近代への扉」。是非、足をお運びいただき、新しい財団の姿を味わっていただければと願っております。



研究部より特別展図録について

研究員 大塚 優美

4月23日から特別展「異文化は共鳴するのか？大原コレクションでひらく近代への扉」が始まりました。「近代美術の大きな特質と魅力は、異文化の融合、混交にある」という視点から、大原美術館の豊かな歴史とコレクションの魅力に迫る内容となっています。大原美術館をよくご存知の方にとっては、親しみある作品がちょっと意外なお隣さんと並んでいたり、久しぶりの再会となる作品があったりと、新鮮に感じていただけるポイントがたくさんあるはず！と期待しています。

そして、今回は特別展という期間限定の舞台を、ご覧いただいた方々の記憶の中だけでなく、手に取れるかたちでも残すべく、図録も作製いたしました。館長三浦篤の巻頭論文をはじめ、各章の解説やコラム、作家解説などを書き下ろし、特別展をより深く知っていただける内容ともなっています。また、資料も含めて作品図版はすべてカラーで掲載し、主要部分には英訳も付しましたので、海外の方向けのお土産としてもおすすめです。

特別展は9月23日まで。普段とは一味違った大原美術館をたっぷりお楽しみいただけるよう、長めの会期設定となっておりますので、お近くまでお越しの際はぜひお立ち寄りくださいませ。そして、会場での思い出を図録でもお持ち帰りいただけましたら幸いです。



特別展の図録 価格¥2,200(税込)



特別展の楽しみ方～新規コンテンツについてご紹介～

プロモーションチーム長 石井 啓太

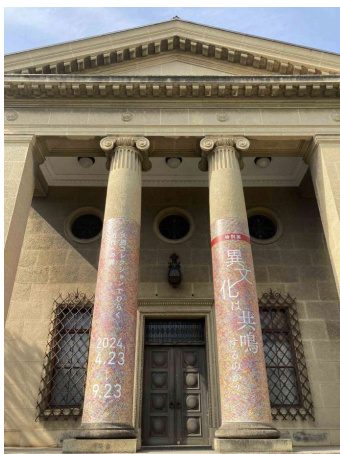
事業部マーケティング課プロモーションチームより特別展「異文化は共鳴するのか？大原コレクションでひらく近代への扉」に関する新規コンテンツについてご紹介いたします。

特別展期間中限定の「音声ギャラリーツアー」です。大原美術館館長の三浦篤と公益財団法人大原芸術財団の理事であり、「Voicy」のパーソナリティ田中慶子氏が対談形式で特別展の紹介をした声を収録しており、その音声を専用のQRコードを読み取ることで、ご来館者自身のスマホで聴く事ができます。「Voicy」とは人や社会を豊かにする声が集まる日本発の音声プラットフォームです。音声収録には田中慶子氏のご協力のもと、「Voicy」を使用させていただきました。今回の特別展「音声ギャラリーツアー」は、弊館にとって初の試みということもあり、無料にてご案内をしております。お聴きいただくには、ご来館者自身が使用しているスマホと専用のイヤホンが必要になります。万が一イヤホンをお持ちでない場合でも、イヤホンジャック変換コードとイヤホンをセットにして販売をしておりますのでそちらをご利用いただければと思います。「音声ギャラリーツアー」を聴きながら特別展をご覧ください。理解も深まり、さながら解説ツアーを疑似体験できるコンテンツになっていると思いますので、是非、この機会にご体験ください。



音声ギャラリーツアーのQRコード

特別展期間中のフォトスポット！



特別展期間中の本館外観

特別展期間中は、本館が特別展仕様になっております。特別展ビジュアルを2本の柱に巻きつけております。イメージの絵画的な表現は、特別展をキュレーションした三浦館長のタイトルへの想いが伝わるように、異文化の融合や混交したビジュアルです。グラフィックシンボリックな背景と重要なタイトルの絶妙なバランスで共鳴しています。期間中だけのフォトスポットになっております。この特別展にお越し際は、ぜひ記念に撮影ください。

後援会事務局新メンバーになりました

今年4月の組織変更に伴い、後援会事務局のメンバーも新メンバーとなりました。

大原美術館を未来へと繋げるために、今私たちにできることを考え、行動していく所存です。今は、会員のみなさまと集う特別な時間を企画している所です。今後の活動にご期待いただけますと幸いです。

100年を迎える大原美術館の歴史を皆様と一緒に作り上げるため、これまでと同様に皆さまのご協力・ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(後援会事務局 小田部理恵記)

